



MAEBASHI FOCUS

国際交流員 (CIR) ニュースレター

2月12日をもって、アーツ前橋の開館10周年記念展「ニューホライズン 歴史から未来へ」が幕を閉じました。私は去年、ガイドマップ、ディレクターメッセージ、作家プロフィールなど、たくさんのNH展関連の英語チェック依頼をいただきました。その当時、展示作品の写真を資料やチラシなどでちらほら見ることはあったものの、文書を中心に翻訳作業に取り組んでいたため、あまり深く鑑賞することができませんでした。そういうこともあり、3ヶ月半後にアーツ前橋で実物を目にした時のインパクトがものすごく大きかったです。自分がほんの少しだけ関わらせていただいたプロジェクトを最後まで見届けたような気がして、国際交流員の業務にとってもやり甲斐を感じた瞬間でした。



大きさといい、ダイナミックさといい、一番印象に残った作品はレフイーク・アナドールの《LAの風／太平洋／カリフォルニアの風景》の他にありません。絶えることなく動き続けるピクセルたちが生み出す不思議な三次元世界に15分ほど浸っていました。見る人は大画面の中に吸い込まれると言っても過言ではありません。ザドック・ベン＝デイヴィッドの《見たことはあるが会ったことはない人びと》もとても素晴らしい作品で、容姿やバックグラウンドの異なる人々が一つの世界を生きるシーンが描かれており、その空間が多文化共生というコンセプトそのものを表しているかのような印象を受けました。それに、進撃の巨人のシーンを、第三者目線からリアルかつクローズアップで見ている感じも面白かったです。

